

## 2017 年度国際化に関する外部評価を受けて

副学長・教育支援本部担当常務理事 熊田泰章

大学評価委員会経営部会国際化評価グループによる 2017 年度「法政大学国際化に関する大学評価報告書（経営部門）」が確定し、本学の国際化の取り組みについて、外部委員の視点から多面的に点検評価を受けることができた。2017 年度は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU 事業）」採択による事業開始から 4 年目にあたり、これまでの進捗状況に関して中間評価が実施され、それに基づいて SGU 事業の支援期間後半とそれ以後についての見通しを立てる節目の年度であった。それとともに、国際化に関する点検評価においても、[評価項目]として以下の 3 項目について、資料と大学役職者インタビューに基づき総合評価をいただいた。

- (1) SGU の取り組みの進捗状況及びこれまでの成果について
- (2) 英語学位プログラムの運営状況について
- (3) 派遣・受入れ学生の生活支援、キャリア支援および危機管理について

その結果、報告書に記されているように、法政大学が創立 150 周年となる 2030 年を期して長期ビジョン「HOSEI2030」を策定するとともに、SGU 事業を核とする大学のグローバル化を基軸に、ビジョンの実現に向かって全学的な取組を進めていることを高く評価するとの評言を得ることができた。また、SGU 事業は、当初予定された補助金が縮小されるなどの制約条件にもかかわらず、全学を挙げて着実に推進しているとの評価をいただいた。英語学位プログラムが順次開始されつつあるが、入学者の受け入れは順調であり、それぞれのプログラム入学者及び派遣留学生への支援体制が整えられていることに加えて、「グローバル・オープン科目群」などの実施によって、日本人学生が国際的な学びを得る機会が拡充されていることも評価していただいている。また、英語での窓口対応の促進など、職員のグローバル化対応力の強化を取り上げて評価していただき、日常業務の国際化対応の重要性に付言していただいたことは、大きな励ましとなった。

課題としては、学生の SA 留学や派遣留学、アクティヴ体験プログラムなどでの国際プログラムへの送り出しに大きな成果がある一方で、外国語力基準を満たす学生数が目標に届いていないことが指摘されている。また、教員の在外研究学部割り当てを執行しきれておらず、研究面での国際連携促進が必要であるとの指摘を受けた。

報告書は、締めくくりに、外形的な結果を求めるのではなく、学生の将来にとって必要なこと、法政大学が社会的存在価値を高めるために真に重要なことを見極めることを要請するとして結ばれているが、まさに、それこそが私たちの目指すところであると確信することができた。